

**京都大学教育研究振興財団助成事業
成 果 報 告 書**

2019 年 6月 26日

公益財団法人京都大学教育研究振興財団
会 長 藤 洋 作 様

所属部局・研究科 医学研究科 糖尿病・内分泌・栄養内科学

職 名・学 年 研究員

氏 名 真能 英美香

助 成 の 種 類	2019 年度 ・ 国際研究集会発表助成	
研 究 集 会 名	第79回 アメリカ糖尿病学会学術集会	
発 表 形 式	<input type="checkbox"/> 招 待 ・ <input type="checkbox"/> 口 頭 ・ <input checked="" type="checkbox"/> ポスター ・ <input type="checkbox"/> その他()	
発 表 題 目	What type of physical activity is more important? : The Nagahama Study	
開 催 場 所	アメリカ合衆国,カリフォルニア州,サンフランシスコ,the Moscone Center	
渡 航 期 間	2019年 6月 7日 ~ 2019年 6月 11日	
成 果 の 概 要	タイトルは「成果の概要／報告者名」として、A4版2000字程度・和文で作成し、添付して下さい。「成果の概要」以外に添付する資料 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有()	
会 計 報 告	交付を受けた助成金額	200,000円
	使用した助成金額	200,000円
	返納すべき助成金額	0円
	助 成 金 の 使 途 内 訳	学会参加費 875ドル
		旅費 1125ドル
当財団の助成について	サンフランシスコは物価も宿泊費も高額でしたので、助成金をいただくことができて大変助かりました。	

成果報告書および成果の概要は、財団に郵送(あるいは持参)するとともに、Excel・Wordファイルでメール送信して下さい。メール送信分の印鑑は不要です。

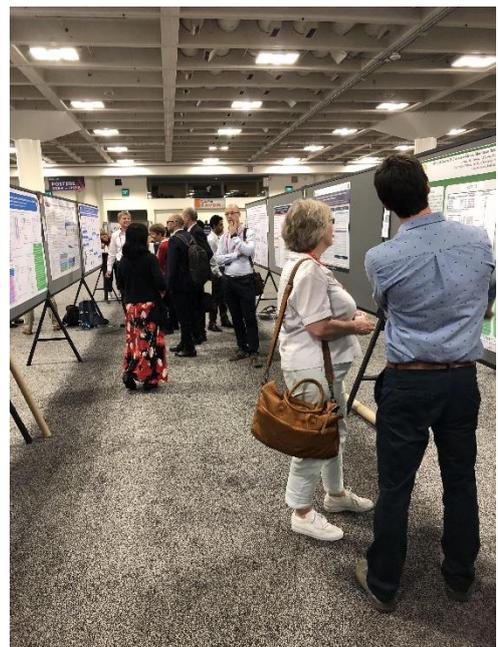
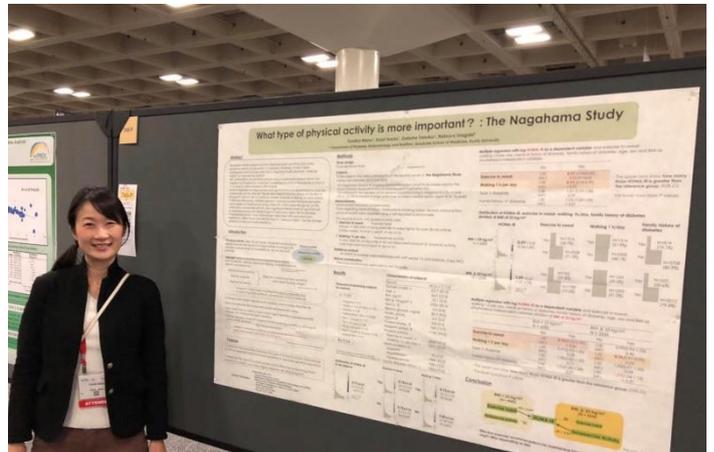
成果の概要／真能 芙美香

貴財団の国際研究集会発表助成をいただき、2019年6月7日～6月11日にサンフランシスコで行われた第79回アメリカ糖尿病学会学術集会に参加し、研究成果を発表して参りました。世界中から一万人を超える参加者が集い、非常に規模が大きく、刺激的な学会でした。

私は、6月9日にポスター発表を行いました。これまで私が参加してきた日本糖尿病学会や、アジア糖尿病学会では、3分程度のプレゼンテーションのあと2分程度の質疑応答という発表方法でしたが、アメリカ糖尿病学会のポスター発表は、1時間ポスターの横に立ち、閲覧に来られた人の質問に答えたり、議論したりするスタイルでした。

今回私は、糖尿病発症予防の観点から、身体活動とインスリン抵抗性改善の関連について検証を行い、BMI 23(kg/m²)以上では日常生活活動が、BMI 23(kg/m²)以下では運動習慣が、それぞれインスリン抵抗性改善の有意な予測因子であることを明らかとし、その成果を発表しました。アジア人は、白人と比べて低いBMIで糖尿病を発症することが知られており、アメリカにおいてもアジア系移民の糖尿病予防・治療には関心が寄せられています。今回の私の発表内容は、糖尿病予防に効果的な運動療法がBMIによって変わる可能性を示すものであり、多くの方がポスターブースを訪れてくださり、議論を交わすことができました。「なぜBMIによって効果的な運動が変わると思うのか」「運動そのものの効果と減量効果のどちらがインスリン抵抗性改善に効果的か」という質問を複数の方からいただき、研究者が興味を持つポイントについても整理できたように感じています。学会発表で手応えを感じたので、この内容を論文化しようと考えています。

私はもう一つのテーマとして、糖尿病療養・患者教育についても研究を行っています。現在、日本の患者教育は欧米のメソッドに基づいて行われていますが、糖尿病療養は生活や社会・文化的背景に影響されるため、欧米の方法が日本人患者に合わない場合も多く見受けられます。今回の学会で、世界の様々な国の糖尿病療養研究について触れることができました。興味深かったのは、患者が糖尿病であることによるストレスや劣等感を感じているのは世界共通ですが、その解決方法としてアメリカではどのようにして自尊心を回復するかに焦点が当てられているのに対し、アジア諸国では劣等感が形成される過程や周囲の人からの具体的なサポートに焦点を当てている場合が多かったことです。このポスターセッションでは、韓国やカザフスタンの研究者と議論を交わすことができ、自分の研究の方向性について、アイデアを得ることができました。



サンフランシスコは大都会でしたが、学会が行われた SOMA 地区はホームレスが大変多く、その大半が薬物中毒者のようで足元がおぼつかない状態で、昼間でも速足で歩かないと不安になるような場所でした。私は今回初めてアメリカ本土を訪れたので、格差社会の現実を目の当たりにして衝撃を受けました。日本に帰ってきてホッとしたと同時に、自分たちが大人として、国をどのように発展させていくのか、もっと政治についても真剣に向き合う必要があると感じました。一方で、食事とワインがとても美味しく、夜にはアメリカ留学中の先輩と数年ぶりに再会して、近況報告や情報交換をし、楽しい時間を過ごしました。フィッシャーマンズワーフで食べた蟹の味が忘れられません。(笑)

アメリカ糖尿病学会では、多くの実りある時間を過ごすことができました。貴財団の助成に大変感謝しております。ありがとうございました。